

2023
7-9 月期



第二十二回 美濃加茂市内企業 業況調査結果
調査項目 (自社業況・売上高・採算・仕入単価・従業員・資金繰り)

二〇二三年九月に会員六十事業所について業況調査を実施し、全事業所から回答を得ました。(回答率100%)
ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。今後も年四回実施いたしますので、ご協力頂きますようよろしくお願いいたします。

〈調査概要〉

今回の調査期間は、本格的な夏シーズンを迎えて人出の増加により観光関連需要の盛り上がりもあり、前回調査(二〇二三年四月～六月期)の売上DI・採算DIを比較すると緩やかな上向き傾向がみられました。
しかし、エネルギー価格や仕入価格の上昇による価格転嫁の遅れや物価高騰による消費者の節約志向の高まりから、サービス業や商業の業況悪化がみられました。

1 2023年7月～9月期の動向

【業況DI】

業況	今期 2023年7月～9月	先行き 2023年10月～12月
サービス	▲ 30.0	▲ 20.0
運輸・自動車	▲ 20.0	▲ 40.0
観光・飲食	30.0	30.0
建設	▲ 10.0	▲ 40.0
工業	10.0	30.0
商業	▲ 30.0	▲ 40.0
全体	▲ 8.3	▲ 13.3

(※前回調査 ▲3.3) (※前回調査 ▲6.7)

【仕入単価DI】

仕入単価	今期 2023年7月～9月	先行き 2023年10月～12月
サービス	▲ 60.0	▲ 50.0
運輸・自動車	▲ 90.0	▲ 80.0
観光・飲食	▲ 80.0	▲ 70.0
建設	▲ 60.0	▲ 70.0
工業	▲ 60.0	▲ 40.0
商業	▲ 90.0	▲ 70.0
全体	▲ 73.3	▲ 63.3

(※前回調査 ▲ 78.3) (※前回調査 ▲ 66.7)

【売上DI】

売上	今期 2023年7月～9月	先行き 2023年10月～12月
サービス	▲ 40.0	▲ 30.0
運輸・自動車	▲ 10.0	▲ 10.0
観光・飲食	30.0	40.0
建設	▲ 20.0	▲ 40.0
工業	20.0	30.0
商業	▲ 50.0	▲ 40.0
全体	▲ 11.7	▲ 8.3

(※前回調査 ▲ 16.7) (※前回調査 ▲ 15.0)

【従業員DI】

従業員	今期 2023年7月～9月	先行き 2023年10月～12月
サービス	0.0	10.0
運輸・自動車	40.0	50.0
観光・飲食	30.0	30.0
建設	30.0	40.0
工業	20.0	20.0
商業	20.0	10.0
全体	23.3	26.7

(※前回調査 26.7) (※前回調査 25.0)

【採算DI】

採算	今期 2023年7月～9月	先行き 2023年10月～12月
サービス	▲ 40.0	▲ 20.0
運輸・自動車	▲ 60.0	▲ 70.0
観光・飲食	10.0	30.0
建設	▲ 40.0	▲ 60.0
工業	20.0	10.0
商業	▲ 60.0	▲ 50.0
全体	▲ 28.3	▲ 26.7

(※前回調査 ▲ 33.3) (※前回調査 ▲ 30.0)

【資金繰りDI】

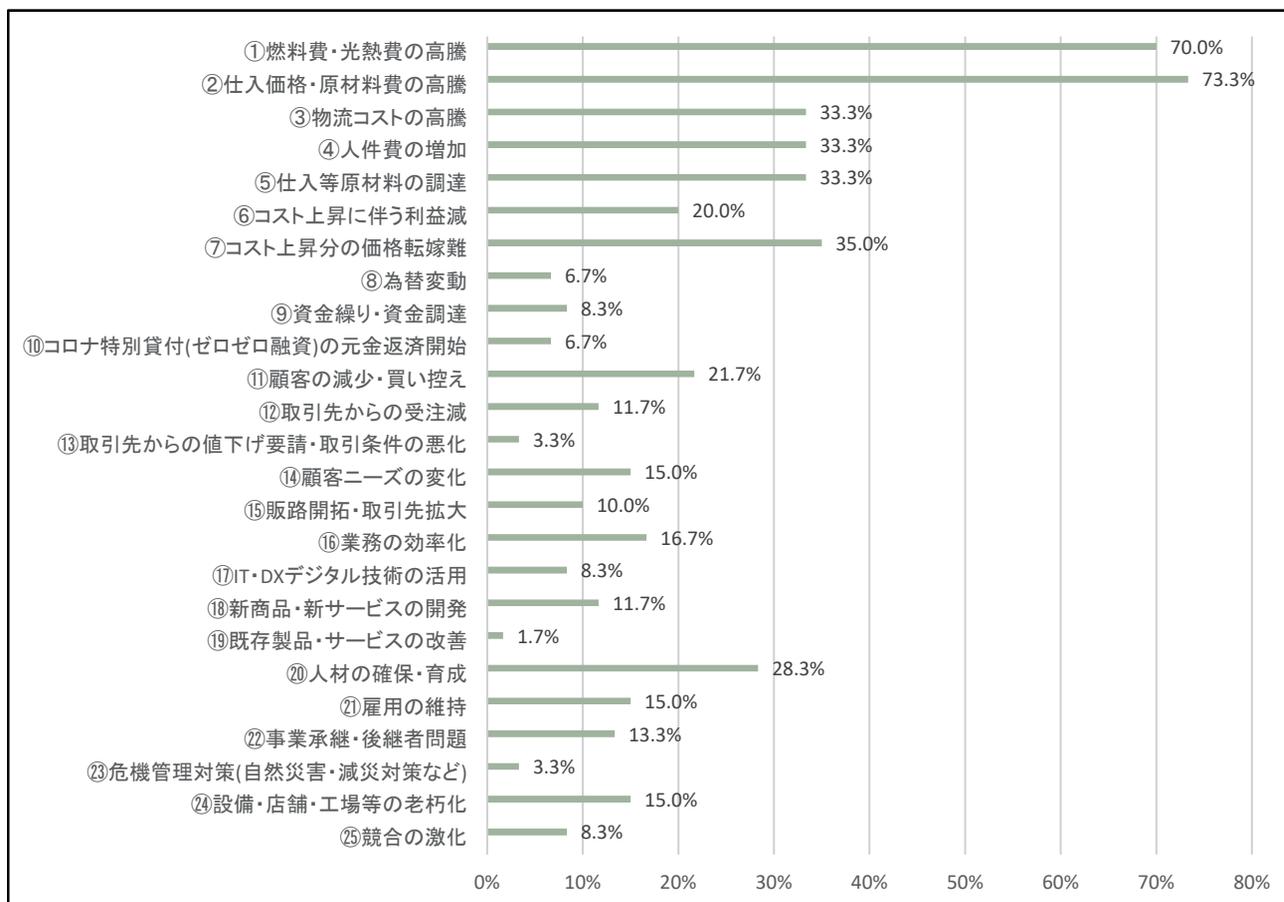
資金繰り	今期 2023年7月～9月	先行き 2023年10月～12月
サービス	0.0	0.0
運輸・自動車	▲ 10.0	▲ 20.0
観光・飲食	▲ 10.0	▲ 10.0
建設	0.0	▲ 20.0
工業	▲ 20.0	10.0
商業	▲ 10.0	▲ 10.0
全体	▲ 8.3	▲ 8.3

(※前回調査 ▲6.7) (※前回調査 ▲8.3)

※ DI (景気判断指数) とは、業況・売上高・採算・仕入単価・従業員・資金繰りの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示します。つまり、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

2 現在の経営課題や問題点について（複数回答可）

現在の経営課題や問題点について伺ったところ「②仕入価格・原材料費の高騰」が73.3%、次いで、「①燃料費・光熱費の高騰」が70%と最も高い結果となりました。



調査結果

【表1】の業況DI・売上DIをみると、特に商業・サービス業の落ち込みがみられる結果となりました。自動車業からは「部品の仕入価格が高騰しているが価格に転嫁できていない」、運輸業からは「燃料高騰に苦しんでいる」との声がありました。

仕入価格DIは、全ての業種で価格が上昇傾向であると回答しているが、前回の調査と比較すると5ポイント改善している。

従業員DIについては、特に運輸・自動車業から従業員不足と回答している企業が多くみられました。運輸業からは「人材不足に苦しんでいる」といった意見もありました。

採算DIは、運輸・自動車業と商業の落ち込みがみられますが、前回の調査と比較すると5ポイント改善しています。今回は、現在の経営課題や問題点について調査を行ないました。

【表2】によると、「②仕入価格・原材料の高騰」が73.3%と最も多く、次に「①燃料費・光熱費の高騰」が70%でした。工業からは「原材料・資材・燃料の高騰が経営に響いている」といった意見もありました。

景況感について伺ったところ、「インボイス対応による事務の煩雑さや電子帳簿保存法の対応により余分な仕事と時間をとられている」といった意見や、飲食業からは「売上があってもキャッシュレス化により現金化が遅れるため資金繰りが厳しい」「10月からインボイス制度が始まるが対策がみつからない」といった先行きを懸念する声がありましたが、建設業からは「ガソリンの高騰により元請業者からガソリン代をもらえるようになったため利益の増加に繋がった」、飲食業からは「原材料・燃料費の高騰により、メニュー改定や価格改定を行い、コンセプトの見直しを行った」といった意見もありました。